

神奈川県山梨教会連合会より

かりん

「信心は、親に孝行するも同じこと」

奥川美智雄先生は、昭和三十一年九月三十日、平塚教会にて前教会長奥川達雄先生、昌子先生の四男としてお生まれになりました。

昭和五十一年に学院に入学、翌五十二年に卒業され、同年六月に教師補命をいただくことができました。約二年間、「本部の内掌部（内事課）と教学研究所で御用に仕えられ、その後、平塚教会にて前教会長ご夫妻、奥様と御用に仕えられます。

約十年前に、前教会長から後継の命を受け、現在、教会長の御用にあたられています。

○先生は十九歳というお若い年齢で学院に入学されますが、大学進学や就職などは考えたしなかったのですか？

美智雄先生（以下・美）…実は、大学受験をして、日本体育大学に合格をしていました。

しかしその頃、丁度平塚教会の改築御造営が決まっており、教会の隅々からお金をかき集めて、信者さんも一所懸命になられている中、大学進学にかかるお金を用意するのが難しかったです。なので、大学進学は諦めました。

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第 38 回 平塚教会 奥川美智雄先生



○せっかく受かった大学に行けないなんて、当時の先生は悲しんだり怒ったりされたのではないですか？
美…それが、そうでもなかったね。実際、バイトを頑張りながら大学の授業料を払う道もあったと、今になって思うけど、当時はそこまでの思いがなかったのかもしれないね。

また、昔話で「信心は親孝行するも同じこと」というみ教えを聞いたのが頭

の中に残っていて、当時の僕がそのみ教えをちゃんと理解していたか分からないが、漠然と「親孝行すること」が信心することになるのか」と考え、大学進学にお金をかけさせたりしないので、親の喜ぶような事をしてあげたい、と思っていたので。昭和五十二年に御造営させていたのだけど、後々の事を考えても大学進学しなくてよかつたな、と。そういう運命というか、神様がお道づけてくれたのかもしれないね。

高校卒業後、一年間はバイトしながら車の免許を取りに行ったり、教義を勉強したりして自由に暮らし、次の年に学院に入学。そんなに反発心なんかは不思議と起こらなかったね、多分僕が変わってるんだろうね（笑）。

○世の中ではよく、跡取りは長男がするものだという風潮がありますが、よく四男の先生が跡取りになる決心をつけられましたね。

美…当時すでに兄たちは、皆一人暮らししたり、世帯をもったりして教会にいなかったりで、なんとなく僕が跡継ぎにならなければ、と思っていた。

それも、「信心は親孝行するも同じこと」というみ教えの影響があったのだろうと思う。

また偶然に、父も八人兄弟の四男で、僕も四男。長男が後継者にならなければいけない、という考えは、そんな訳で思わなかったのかもしれないね。

色々ありながら、気が付けば父は八月七日の平塚教会月例祭の日に誕生日を迎え、九十三歳に。母も八十九歳になりました。少し調べてみたら、ご存命の金光教師の中で父は十五番目に早い教師番号になっており、それだけ長い間元気に御用にあたってこられたということで、それを父にも報告しました。

父にも喜んでもらえ、ますます長生きしてもらいたいと思います。

○ありがとうございます。（今村則子）

○第1回・第2回教師信徒共励会

が行われました

去る6月20日(土)、小田原教会に於いて「第1回教師信徒共励会」が、6教会から16名が参加して行われました。

福田連合会長の挨拶に引き続き、会場である小田原教長宮川昌也師より、「百二十年を迎えるに当りその想い」と題して12名の歴代教会長の布教情熱が語られました。

次に、小田原教会信徒を代表して二名の方の発表がありました。辻秀志さんからは「私にとつての教会とは」という題で、「教会との関わり、信心の程度としては、神様を感じる体験が出来たこと、御用に立つことは母への恩返し」というお話があり、続いて須藤正子さんは「自分の神様を持つとうとう御教えを頂いて」という題で「親からの信心の継承、安田先生との出会い、長男の死、長女の病」について話されました。

今回は班別懇談という形をとらず、発題者への質問を中心に全体で懇談をさせていただきますました。「自分の神様を持つとう」の意

味合いについては、
教会目標：みんな取次者になる。
信心の要約：自分の神様を持つとう

実践目標：いつでもどこでも金光大神に願う。
さらに、私にとつての教会とは、あいよかけよの実践等の話題で懇談を行いました。

続いて去る7月11日(土)、神奈川教会に

於いて「第2回教師信徒共励会」が、11教会から32名が参加して行われました。

会長挨拶に引き続き、「開教百二十年をお迎えして」と題して、会場の神奈川教会長福田光一師より教会の歴史が述べられました。

次に、神奈川教会信徒から二名の発表がありました。まず大塚東子さんより「私にとつて教会とは」という題で、「教会は抛り所であり、結果取次は共に助かってくれる処である。」ということが話され、続いて柴田俊郎さんから「私の好きな教え」として、『金光教祖御理解』53節の「信心すれば眼に見えろおかげより眼に見えぬおかげが多い(後略)」を引用して、「ご自身の被爆体験が語られました。その後、二班に分かれて班別懇談が行われ、活発な意見交換が行われました。以下に班別懇談では出された主なものを紹介します。

- ・ 信心を継承させるためには、家庭の中で信心の話をすることが大切。
- ・ 人それぞれ求め方が違う。
- ・ 教会は信心の稽古場所、実践は教会外で信心を表す。
- ・ 教会は生活の中での抛り所
- ・ 教会によってカラーがあるのは幅があつてよいと思う。
- ・ なかなか自分をさらけ出すことができない。
- ・ 相手に伝わらない部分が多い
- ・ などなど、終了時間を越えても話が尽きない様子が窺われました。(報告 横山光雄)

○みなのバスで梨狩り

去る、6月6日(土)神奈川山梨教会連合会主催による、みんなのつどい②「さくらんぼ狩り」が開催された。入梅時期でもあり朝まで雨模様であったが、神奈川県からの参加者21名一行は、横浜駅西口に8時30分に集合し、貸切バスに乗り込み目的地である南アルプス市に向かって出発した。渋滞が予想された高速道路も比較的スムーズに走り、山梨県に入る頃には快晴となった。

車中で参加者たちは、用意されたゲームで楽しみ、初対面にも関わらず交流を図ることが出来た。また、世界遺産に認定された雄大な富士山に感動する一場面もあった。

バスは集合時間前に目的地に到着し、山梨県からの参加者11名と合流し、開会行事の後、真っ赤に色づいた甘いサクランボの食べ放題に、「天地の恵みに感謝」しながら美味しさを満喫した1時間であった。

引き続き、22名がバスに乗り込み「やまなみの湯」に移動。子供たちはプール、大人たちは温泉などで、食事をしたり生ビールを飲んだりとくつろいだ。15時半に再びバスに乗り込み、町田駅を経由した後、19時前に横浜駅西口に無事帰着し解散した。

この度の集会は、テーマとして「天地の恵みに感謝し、旬の味覚を味わう」、更に、信奉者同士の親睦と山梨県信奉者との交流を願って開催されました。(4ページ中段へ続く)

7月3日(金) 13時半から、横須賀教会を会場に「女性のつどい」が開かれました。出席者は11教会から40名の参加でした。

開会行事に続いて、横須賀教会の女性コーラスの方々の歌のご披露があり、94歳になる教会長のお母様を交えて、6人の方々のきれいな歌声にうっとり。その後、木本雅史先生(40歳)の「伝える」と題した講話を頂きました。

教会に生まれて、成績がいいと神様のおかげ、悪いとお前の努力が足りないと言われる理不尽さ、学費もままならない教会の生活の厳しさなど、教会生活に疑問を感じて、高校を卒業すると同時に、教会を出た。その後、新聞配達をしながら大学を卒業、レストラン業界に就職、次々好条件の会社にステップアップしたが、やがて難病に苦しむ女性と知り合い、結婚。奥様の支えになることに生き甲斐を見出した。ところが、奥様は子供も産んであげられないと前途を悲観し、自死された。そこから先生の苦しみが始まる。

ご葬儀の際、お父様である教会長の「心を込めてお仕えさせてもらおうな」という言葉に、初めてご両親を宗教者として見た。奥様の遺された化粧ポーチの中に、御神米の紙に包まれたご自分の写真を発見した時、奥様はずっと祈ってくれていたのだと気が

「女性のつどい」
が行われました

ついた。教会に生を受けた自分は祈ることなど忘れていたのに、妻は祈ってくれていたのだ、と。この妻の気持ちを無駄にしないためにも、自分はやはり教師になるべきだ、教師になって、いのちの大切さ、伝えることの重要さ、今大切にしなければならぬこと、などについて、考え実行していきたい、と話してくださいました。

先生ご自身も声を詰まらせ、涙をこらえながらお話しされ、聴いている私たちも涙、涙で聞かせて頂きました。

休憩をはさんで、質問やそれぞれが抱える悩みを打ち明けたりして、実り多い、内容の濃い懇談をさせて頂きました。先生の講話に触発されて、中身のある懇談ができたのだと感じました。当日は一時大雨警報が出るようなお天気でしたが、船にも車にも積めないようなおかげを心にとくさん頂いて、晴れ晴れとした思いで帰途につきました。(報告 大塚東子)



コーラスの様子。
中央が94歳になられる
木本マサ子先生です。

〇「ひいらぎの会」勉強会を開催

去る6月2日(火)、鶴見教会で「ひいらぎの会」勉強会を開催しました。

今回は、上手な教話の仕方身につけたという事で、金光教東京学生寮・寮監で、金光教の話し方教室の講師でもある辻井篤生先生に講師をお願いして、「人が助かる」教話を目指して」との講題でお話をして頂きました。

普通の話し方と教話との違いのお話から、具体的に「話す目的を明確にする、絵や映像が目につかぶように話す、目で話す」など伝え・伝わる技のお話をして頂きました。話し上手になると聞き上手にもなるというお話もあり、大変勉強になりました。

その後の質疑応答で、学生寮の寮監という立場で今の若者にどう接し、どう話しているかなど、具体的な例を上げて話してくださいました。ここでは、若者の話を聞くということがとても大切だということを感じました。

次回の開催は12月で、今後の事について話し合いを持ちたいと思っています。

(報告 南 恵子)



○地域交流会 小田原城付近散策

6月10日(水)、連合会信徒部主催の地域交流会が小田原で行われ、9教会から23名の参加がありました。

当日は小田原駅を10時に出発、お堀端通りをゆっくり30分ほど歩いて、銅門(あかがねもん)から城内に入り、お目当てのアジサイと花菖蒲の庭園をのんびり鑑賞しました。そこから階段を登って常盤木門を通り、小田原城本丸広場に着きました。ここで、全員写真を撮り、希望者15人が天守閣に登って、戦国時代、五代百年の後北条時代の歴史や文物を見物し、周囲の山や海の景色を楽しみました。



本丸で昼食をとった後、二の丸にある二宮神社に参ってから、かまぼこ通りを通過して小田原市浜町にある、今年、開教一二〇年を迎えた小田原教会にお参りし、お広前でお茶とお菓子をいただいで喉を潤して、歓談の後帰途につき、15時に小田原駅で解散しました。

梅雨の季節に入ったというのに快晴で、お天気のおかげをいただき、参加者がお互いを知り合って交流の実を上げました。

(報告 辻 秀志)

(↓2ページ下段より続く)

参加者からの感想では、「甘く美味しいさくらんぼが食べ放題に満足」また、「温泉施設ではくつろぎの時間もあり、楽しい有意義な1日であった」と語ってくれました。
(報告 安達幸則)

《お知らせ》

○訃報

子安教会前教会長村田喜實雄先生が、7月2日にご帰幽になられました。75歳でした。
謹んで、これからの御霊様の立ち行きをお祈り申し上げます。

○行事の延期

8月29日(土)に予定しておりました「みんなのつどい3 ポーリング集会」は延期となりました。開催日時が決まりましたらお知らせいたします。

○第3回 教師信徒共励会

2ページに報告記事がありました「教師信徒共励会」、本年は開教百二十年を迎える教会を会場に行っております。その最終、第3弾が、

9月12日(土)に甲府教会で開催されます。詳細につきましては、各教会宛に送付しておりますチラシをご参照ください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

〈な・が・れ〉

『声かけと挨拶』

横須賀教会 柴田豊

私の家の近くに幼稚園生、小学生がおり、朝、学校に出掛ける時に私の友人が「おはよう」「いってらっしゃい」と声をかけると「いってきません」と挨拶をする子と、そしらぬふりをする子がいる。常にこの繰り返しをしていると、だんだんに挨拶をしてくるようになる。話を聞き、私も実施しようと、アルバイト先のマンションで、朝、子供が出掛ける時に声かけをしました。
すると、友人から聞いていた通りでした。毎日毎日声かけを繰り返していると、今まで挨拶しなかった子が挨拶するようになり、帰宅時にも「お帰りなさい」「ただいま」との挨拶になってきました。更に、子供の方から話しかけてくることもあります。声をかけ挨拶が返ってきた時には、なんとも気持ちのいいものだ！
これは、日常生活の中でも「いただきます」「ごちそうさま」「いってらっしゃい」「いってきません」等々、その声かけと挨拶をするとしなないとでは、気分が良くなったり、悪くなったりもします。
「道を歩きながら話をしても、腰をかがけて話しても、心から納得すればおかげになる」との教祖様の御教えがあります。声かけは布教にもつながると思えますので、声かけと挨拶を忘れず行っていきたいと思います。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光 一

〒221-0057 横浜市神奈川区青木町六一二十五
金光教神奈川教会内